

(別紙様式 2)

学生等評価の改善状況報告書

平成 28 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

人文社会科学部長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 27 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
時間割に関して改善要求があるので、時間割作成の際に対象学年を同じくする科目の開講枠が重なることがないように留意する。また特定の曜日は時間帯に専門科目が集中しないように、教務委員会から各学科に注意する。
実施時期（予定を含む）： （予定を含む）：平成 25 年秋（翌年度時間割作成時）
改善状況
教養科目・学部共通科目・資格系科目の順に時間割を作成し、学科専門科目においても学年の重複がないよう、教務委員が調整する体制を整えた。次年度からは、副専攻系科目の重複を防ぐために、地域創造学環との連携する体制を整えた。
達成年度（予定を含む）
平成 27 年度

改善事項
学部生の英語教育
改善計画
共通英語のカリキュラム改変に伴い、これまで 2 年次までの必修 4 科目 8 単位と選択 2 科目 4 単位までとなっていた英語科目が、能力と意欲のある学生については必修 2 科目 2 単位、学部指定履修科目 2 単位の他に 4 年次まで履修した 6 単位を教養科目の必要単位数に、

<p>またそれ以上に取得した場合には自由科目の一部として数えることができるようになった。学部として積極的な履修を勧める方策をとる。また、共通科目、専門科目を問わず、授業以外の場で、英語履修を促す学部生の集いの場を設ける。</p>
<p>実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋～平成 26 年度</p>
<p>改善状況</p>
<p>4 月ガイダンスで、2 年次以降の教養教育における英語科目の履修を推奨する体制とした。国際日本学副専攻の履修の認定の要件として英語で実施する科目を指定し、英語の履修を推奨する体制を整えた。</p> <p>授業外でネイティブ英語教員をコーディネーターとする English Café を引き続き開催している。</p>
<p>達成年度（予定を含む）</p>
<p>平成 27 年度 国際日本学副専攻は平成 28 年度から実施</p>

<p>改善事項</p>
<p>学部生の初修外国語</p>
<p>改善計画</p>
<p>初修外国語で身に付けた力を実際に活かすため、短期留学などを積極的に勧める。留学体験者の報告会を開催するほか、授業外で留学生と触れ合う機会や、特定の外国語を使用することを義務づけたサロン（カフェ）の開設を行う。</p>
<p>実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋</p>
<p>改善状況</p>
<p>「海外研修」Ⅰ、Ⅱそれぞれ 1 単位科目をⅢ～Ⅴまで増大し、単位数も増加させて留学へのインセンティブとなるようにした。</p> <p>中国語による「毛毛語茶園茶カフェ」が開始された。中国語朗読大会（前期）と中国語弁論大会（後期）を開催し、獲得した語学力を発揮する場を設けた。</p>
<p>達成年度（予定を含む）</p>
<p>平成 27 年度</p>

<p>改善事項</p>
<p>学部生の国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）</p>
<p>改善計画</p>

短期・長期留学をしやすい体制を整える（短期留学の単位化、長期私費留学の単位認定、国際インターンシップなどの開設可能性を探る）。部局間交流協定校から帰国した日本人学生の報告会を開催する（また、帰国学生には留学経験を報告書にまとめてもらい、留学志望の学生に随時、配布する）。

そのほか、日本人学生と海外からの留学生との交流の機会を増やすべく、国際交流センターとも積極的に連携していく。また、国際的視野の涵養を含む学科横断的科目パッケージの検討を始める。

実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋

改善状況

実践的英語力の修得を柱のひとつとする国際日本学副専攻のカリキュラムを完成させた。留学を推奨するため、留学の阻害要因についてのアンケートを全学部学生を対象におこない、結果を全学教育基盤機構会議と共有した。
私費留学を含む留学を単位化するため、海外研修Ⅰ・Ⅱを海外研修Ⅰ～Ⅴとして拡大・整備した。

達成年度（予定を含む）

平成 27 年度

改善事項

学部生のリーダーシップ

改善計画

フィールドワーク関連の授業で多様な人々と会う機会を多くしたり、授業内でプレゼンテーションを行う機会を増やす。また、市民を対象とした会合・催しでの発表の機会を積極的に作るよう支援する。

実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋

改善状況

学部共通科目「人文社会科学の課題と探求Ⅰ」において、200人規模の授業における学生の自主的なプレゼンテーションを実施した。
社会学科の学生研究発表会（12月実施）では、準備、進行等含め学生が主体的に運営している
学生による朗読プロジェクト「考える森の朗読会」、地域に根付いた商品デザインのプロジェクト「地・デザイン・ジャパン@静岡」プロジェクトなど、学部長裁量経費を用いて、学内外で学生の活動を支援した。

達成年度（予定を含む）

平成 27 年度

改善事項
教職の学級・学校のマネジメント能力
改善計画
「生徒指導」（教職科目、大学教育センター教員担当）の講義内容を見直すことで、学級・学校のマネジメントに関わる実践的能力の習得を目指す。
実施時期（予定を含む）：平成 26 年度
改善状況
「生徒指導」の講義内容見直しは、次年度の課題である。
達成年度（予定を含む）
平成 28 年度